

## 研修報告書 No. 8

所 属： 三豊総合病院

氏 名： 中西 凌河

研修先： 渭南病院

今回、私は土佐清水市の渭南病院で1か月間の地域医療研修を行いました。

私は、香川県の端の病院で研修医をしており、自分の地域も高齢化が進み、特に救急外来を受診される患者さんの7割以上は80歳以上なのではないかと思うほどです。しかし、渭南病院で一般外来を任された際には、もっと高齢者の割合が多いのではないかと感じました。訪問診療や施設往診などに出向いた際には、かなり古い日本家屋に住む患者さんやその家族と接する機会もあり、集落の孤立化や高齢化といった問題はこちらの地域でも深刻だと実感しました。

研修の中で勉強になったことは数えきれないほどありますが、中でも鼠径からのブラインド下CV挿入をはじめとした様々な手技を経験できたことと、一般外来を経験できたことでした。私の臨床研修病院は約400床規模の総合病院ですが、CV挿入などは研修医に回ってくる前に上級医が済ませているため、なかなか機会が少なく、今回の研修で普段回数をこなせない手技をかなり身に染みるまで経験できたことが非常に良かったと思います。

一般外来および救急対応では、ファーストタッチを研修医が、というのは自院でも同じですが、診断および治療方針もすべて自分で考え、帰宅や入院の判断の裁量もほとんど任せられるという、成長したい自分にとってはこの上なく良い環境だったと思います。

また、訪問診療や自宅視察に同行する機会があり、患者さんと自宅に戻り、自宅の様子をソーシャルワーカーや介護業者と話し合い、その患者さんに必要なサービスについて検討する現場を見ることができました。研修医の2年間は急性期の患者さんを診る機会がほとんどで、退院後の生活について考える機会が少なかったのですが、今回同行したことで、今まで考えてこなかったことにも気づくことができ、良い経験になったと思います。

研修先では勉強だけでなく、食事や文化などについても院長先生のはからいで多く知ることができました。高知県といえばカツオ、なイメージでしたが、今となってはサバの刺身の味が忘れられません。休日には観光地を訪れてみたり、温泉に行ってみたりと退屈しない1か月であったと思います。また、偶然ハワイ大学の学生3名が病院研修にきており、懇親会でお酒を飲み交わし、異文化交流もできました。

研修開始前は「なんて遠いところなんだ」と思っていました。研修終了後には、「また来たいな」、「あのお店のごはん食べたいな」と思える場所でもありました。

1点だけ不満があるとすれば、梅雨の季節であり、海沿いの町なのもあって湿度が非常に高かったことですが、不満といえばその程度しかありませんでした。

今回の研修で得た知識や技術をしっかりと今後も生かして参りたいと思います。  
この度は研修の受け入れ、ご指導大変ありがとうございました。